

後期臨床研修プログラム

【検査部】

■一般目標

1. 検査部
臨床医として必要なプライマリ・ケアの知識を広げるために有用な考えられる臨床検査の知識を習得する。
2. 病理検査部
臨床医学における病理診断学の役割を理解するとともに、病理組織学の基本的知識を習得する。

■行動目標

1. 検査部
 - (1) チーム医療：他科医師およびメディカル円滑なコミュニケーションをもつことができる。
 - (2) 問題対応能力・診療計画：病態に即した検査を適切に選択・実施できる。
 - (3) 安全管理：患者および医療スタッフにとって安全な検査実施方法について理解する。
 - (4) 症例提示：症例の病態・検査結果について適切に説明できる。
 - (5) 医療の社会性：保険制度など医療の社会的側面における臨床検査の位置づけを理解する。
2. 病理検査部
 - (1) 病理解剖を通じて疾患の臓器相関および全身的な把握の仕方を学ぶ。
 - (2) 代表的な疾患の典型的な肉眼像・組織像を把握するとともに、臨床データと対比し病態の病態の総合的理解に努める態度を身につける。
 - (3) CPC（臨床病理カンファレンス）や症例検討会に参加することにより医療の客観的評価を行い、医療の質の向上に努める態度を学ぶ。

■学会活動

日本病理学会	年2回
日本病理学会関東支部会	年数回
日本臨床細胞学会	年2回
東京病理集談会	年2回
日本臨床細胞学会関東連合会	年1回
日本臨床細胞学会栃木県支部会	年2回
その他各自の専門とする分野の学会	

■研修医の評価

当院病理部門では、生検例・手術例の組織診、細胞診、剖検を行っており年間のおよその件数は細胞診5700例、細胞診9000例、剖検30体である。

日本病理学会認定病理医、細胞診指導医のもとで組織診、細胞診の見方、手術材料の切出しと肉眼所見のとり方、剖検などについて研修できる。

■剖検

1. 剖検に関する法律及び手続の知識
2. 剖検の意義及び屍体への接し方
3. 剖検の一般的手技の実施
4. 剖検結果記録の実施
内科、外科、小児科、産科等のローテイト期間中に最低5件の剖検に剖検助手として立ち合う。
その内1例は肉眼的所見のレポートを作成する。

